

橈骨遠位端骨折に関する研究

DRUJの不安定性を有する橈骨遠位端関節内骨折術後の後療法についての検討

1. 研究の対象

2014年9月から当院整形外科で橈骨遠位端関節内骨折の診断を受け、術後半年以上リハビリテーションを受けた方。

2. 研究目的・方法

橈骨遠位端骨折は、転倒時に手をついた際に発生し、高齢者やスポーツ外傷で多くみられる。治療にはギプス固定や手術があり、掌側ロックプレート固定術（VLP）が広く普及している。VLPは強固な固定が可能で、術後すぐに可動域訓練を行う施設が多い。しかし、粉碎骨折や尺骨茎状突起骨折、三角線維軟骨複合体（TFCC）損傷を伴う場合、遠位橈尺関節（DRUJ）の不安定性が生じやすく、術後の手首の痛みや可動域制限につながる可能性がある。これまで、DRUJ不安定性の発生要因や回復への影響は十分に明らかにされていない。本研究では、VLP術後のDRUJ不安定性が手関節の機能回復や疼痛に与える影響を評価し、DRUJ不安定性が生じやすい症例の特徴を明らかにすることを目的とする。

研究期間：承認日から2027年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテ情報：年齢、性別、受傷原因、骨折の型、単純X-P所見、尺骨茎状突起の骨折、三角線維複合体の損傷の有無、遠位橈尺関節の不安定性の有無、受傷前のADLおよび活動量 等

臨床評価項目：術後6週、3か月、6か月、1年間の定期的な評価

自動関節可動域：回内、回外、伸展、屈曲の健側比（%）

握力；健側比（%）

DASHスコア、PRWEスコア：平均値±標準偏差

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

川崎市立川崎病院リハビリテーション科 久永希

住所：神奈川県川崎市川崎区新川通 12-1

電話：044 - 233 - 5521（代）

-----以上